

人生の節目となる時間は、本人にはわからない

校 長 武井 正明

好天に恵まれた三連休。10日佐藤ヶ池球場での県大会。野球部はあと3つで頂点を逃したが、投手陣の球威・制球力アップという課題が明確になった。そして何より最後までチーム一丸となって、お互いを鼓舞しながら強敵に挑んでいる姿勢に心を打たれた。



連休最終日。小千谷の義姉夫婦に長野と群馬の県境、渋峠まで連れて行ってもらった義母が、小千谷の家庭菜園で収穫した山幸と一緒に無事帰宅した。2000m以上の高さからの眺望が余程素晴らしかったようだ。写真と共に興奮気味に話してくれた。

早速妻が里芋や牛蒡、茄子などでけんちん汁を作ってくれた。そして義姉の南瓜の煮物。これに亡伯父が愛した緑川酒造の「緑」で一杯やれば、もう言うことはない。

その夜、偶然点けたCSテレビで私が大好きな「フィールド・オブ・ドリームズ」がやっていた。私が最も多く繰り返し観た映画だ。もう何回観たことだろう。ラストの「For our Parents」～すべての親たちに捧げる～がいつもグッとくる。主人公役のケビン・コスナーは惚れ惚れするほど粹で、カッコよかった…。

いい映画というのは何回観ても、その都度違った部分で気づきがあるものだ。

今回は途中から観たが「人生の節目となる時間は、本人にはわからない」という台詞が印象に残った。

この映画を最初に観たのが1989年。今から27年も前だ。当時この台詞は自分を通り過ぎて行った。今この年齢になって、この台詞がズシリと重く響く。

県内どこのチームよりも新チームのスタートが遅いYBCだ。対戦相手のマークもきつい。そういう状況下でよくここまで勝ち上がってきた。去年の先輩たちは、県大会直前で苦杯をなめた。打撃の確実性は、去年のチームよりも上かもしれない。

ここからだと思う。ここからが本当の勝負だと思う。

先輩たちは秋の敗戦から明らかに目つきが変わった。日常生活も変わった。その点君たちはどうだろう。トーナメントの一発勝負では度胸と同じくらい冷静さが必要となる。今こそ普段の自分を見直すべき時だと思う。それが必ず大事な場面で出ます。

今YBCにとって、チームの節目となる時なのかもしれない。がむしゃらにやってきて今は立ち止まって振り返ってみる時だと思う。

冷静に、チームを、自分を見直してみなさい。すべきことが明確になってきます。

そうになったらあとはやるだけだ。次年度の全中への道はもう始まっている。君たちには期待しかない。頑張れ吉中野球部～っ!!